

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：37407

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20278

研究課題名(和文)戦後日本の道德教育における思想・政策・実践の連関：和辻哲郎とその学派を中心に

研究課題名(英文)Thought, Policy, and Practice of Moral Education in Postwar Japan: Focus on Tetsuro Watsuji and his school

研究代表者

桑嶋 晋平(Kuwajima, Shinpei)

九州看護福祉大学・看護福祉学部・講師

研究者番号：20909254

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の目的は、和辻哲郎とその学派が、戦後日本の道德教育の思想・政策・実践におよぼした影響を明らかにすることである。本研究課題の遂行によって、以下のことがあきらかにされた。第一に、和辻哲郎の思想が、勝部真長らその影響下にある論者によって、特設道德において具体化されていったことである。第二に、勝部が特設道德を推進するにあたって、和辻の倫理学や徳の体系をめぐる思想を基盤としていたことである。第三に、和辻が論じた「まこと」という伝統的な思考が、戦後の道德教育論においても展開されていたことである。以上のことは、戦後の道德教育の展開を歴史的にたどるうえでの重要な手がかりとなるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の学術的意義や社会的意義は、次の点に認められる。第一に、戦後日本の道德教育において和辻とその学派が与えた影響のおおきさをあきらかにしたことで、道德教育を歴史的にとらえる視座が得られたことである。第二に、内容項目が勝部らの思想に基づいて形作られたことをあきらかにしたことで、今日内容項目を再考するための糸口となることである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to clarify the influence of Watsuji Tetsuro and his school on the thought, policy, and practice of moral education in postwar Japan. The study reveals the following. First, Watsuji Tetsuro's ethics had a significant influence on the establishment of the class of moral education in 1958. Second, Katsube Mitake's theory of moral education was based on Watsuji's ethics. Third, the traditional thought of "makoto(sincerity)" was developed in postwar moral education theory.

研究分野：教育哲学・教育思想史・道德教育論

キーワード：和辻哲郎 勝部真長 下程勇吉 道德教育 道德の時間 内容項目 道德的価値の体系

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究課題開始当初の背景として、次のような問いがあった。すなわち、1つ目に、戦後日本の道徳教育の思想・政策・実践はいかなる連関のもとでいかに展開されたのか、という問いである。2つ目に、多様な価値観のなかで自ら考え、他者と対話・協働して、よりよい生き方を探求することを可能にする道徳教育の理論と方法は、いかに構想されうるか、という問いである。

この問いの背景には、今日の道徳教育のあり方を考える上で、これまでの道徳教育の思想・政策・実践の批判的検討が必要とされる状況がある。今日、道徳教育の特別の教科化がなされ、学校教育における道徳教育のあり方が問われている。今日の道徳教育においては、多様な価値観のなかで、自ら考え、他者と対話・協働し、よりよい生き方を探求する資質・能力の育成が目指されている。しかし、転換を具体化するには、道徳教育の歴史の検討が必要不可欠であり、これまでの道徳教育の思想・政策・実践の立体的な把握がも求められる。

その理由は、1つに、道徳や倫理が、人々の思想(心性や慣習、また価値観を相対的に表現したもの)に根ざしており、道徳教育もその影響を多分に受けるからである。それゆえ、道徳教育を背後から規定してきた思想へと目を向ける必要がある。そして、それが政策、実践といかに連関したのかを明らかにし、今日にいたるまでの道徳教育を背後から規定することが示すことが必要である。もう1つ重要なことは、戦後日本の道徳教育の歴史の中に、今日道徳教育の理論と方法を構築する上で問いなおされるべき理論的・実践的営為が存していたことである(本研究が主題とする、和辻とその学派の「間柄の倫理」がそれにあたる)。その営為の可能性と限界とを画定することは、転換を具体化する上で必要不可欠である。

2. 研究の目的

本研究課題は、和辻哲郎とその学派が戦後日本の道徳教育をめぐる思想・政策・実践におよぼした影響を明らかにすることで、思想・政策・実践を立体的に把握し、そこで論じられた理論と方法の可能性と限界を示しだすことを目的とする。

和辻とその学派に焦点をあてるのは、つぎの2つの理由による。1つ目の理由は、和辻とその学派が、戦後日本の道徳教育の思想・政策・実践におおきな影響をあたえており、思想・政策・実践の立体的な把握を試みるうえで、適切な対象だからである。

和辻は、近現代日本を代表する倫理学者であり、戦時下から戦後にかけて、道徳教育にも深く関与した。また、彼の弟子や影響をうけた論者は、「道徳の時間」特設などの政策および道徳教育実践にも深く関与した。それゆえ、和辻とその学派に焦点をあてることで、戦後日本の道徳教育の思想・政策・実践を立体的に把握することが可能となる。

2つ目の理由は、和辻とその学派の議論の根幹をなす「間柄の倫理」が、今日、道徳教育の理論と方法を構想する上で、可能性と乗り越えるべき限界を提示しているからである。和辻がその倫理学体系にて示した「間柄の倫理」は、その学派にも受け継がれていった。「間柄の倫理」は、個人の主観や心情にとどまるのではなく、自己と他者とのあいだにおける道徳や倫理を追求する。他方で、「間柄の倫理」が限定された共同体にとどまる問題も指摘されてきた。それゆえ、「間柄の倫理」は、心情重視の傾向や望ましいことを言わせるような道徳教育からの脱却の可能性を内包するとともに、今日乗り越えるべき限界を示している。

3. 研究の方法

本研究課題では、主として文献および史資料の読解・分析を通して、上述の目的の達成を目指した。具体的には、以下の3つのことに取り組んだ。1つ目に、文献の読解・分析を通して、和辻とその学派の思想を明らかにすることである。2つ目に、和辻とその学派が、戦後日本の道徳教育の政策にいかなる影響をおよぼしたのかを明らかにすることである。3つ目に、和辻とその学派の道徳教育論が、道徳教育実践にいかなる影響をあたえ、展開されたのかを明らかにすることである。

以上のことを通して、和辻とその学派を介して戦後日本の道徳教育の思想・政策・実践の連関を明らかにし、戦後道徳教育の歴史を再考することを目指した。

4. 研究成果

(1) 戦後日本の道徳教育および道徳教育論の展開

本研究課題では、まず、和辻やその学派がいかなる歴史的状況において道徳教育論を展開するにいたったのかを明らかにした。

1つ目に、桑嶋晋平 2022「日本道徳教育史」『道徳教育の地図を描く』(教育評論社)においては、近現代日本の道徳教育の歩みを描きだした。この国の道徳教育をめぐる議論は、教科としていかに位置づけるのか、という課題を抱え続けていた。とりわけ、戦後にはその課題が前景化した。この研究によって、和辻とその学派が特設道徳を推進した時代状況や問題状況が明らかに

された。

2つ目に、桑嶋晋平 2023 「戦後日本」の再建と教育学』『教育哲学事典』（丸善出版）において、戦後改革と戦前期の議論の再生とが織り交ぜられながら教育と教育学の再建が図られていったこと、そして誕生した新教育が次世代の論者によって批判されたこと、ただし、次世代の論者においても、戦前・戦中の議論が差異をふくみながら再演されていたこと、を論じた。この研究によって、戦後の道徳教育論は、戦前・戦中の修身教育への批判という性格を強くもっていることはたしかであるが、上述のような状況のうえで生じたものであることが示唆された。

(2) 和辻哲郎の倫理学が戦後の道徳教育に与えた影響

本研究課題では、和辻哲郎が戦後の道徳教育に与えた影響を明らかにした。

桑嶋晋平 2023 「和辻倫理学の系譜としての勝部真長の道徳教育論（上）」『九州看護福祉大学紀要』第23巻第1号においては、敗戦後に和辻が公民教育構想を端緒として道徳教育にかかわりをもったこと、およびその学派の論者たちが特設道徳を推進するなど、戦後の道徳教育に深くかかわったことを論じた。そして、和辻とその学派の道徳教育論を明らかにすることが、戦後日本の道徳教育を歴史的に考察するうえで必要不可欠な課題であることをしめした。

(3) 勝部真長の道徳教育論の特質と和辻倫理学の影響

本研究課題では、和辻の学派に属する人物として、勝部真長をとりあげ、その道徳教育論が和辻のいかなる影響のもとで構築されたのか、そして、それが特設道徳の推進にいかんしてむすびついていったのかを明らかにした。

桑嶋晋平 2023 「和辻倫理学の系譜としての勝部真長の道徳教育論（上）」『九州看護福祉大学紀要』第23巻第1号および桑嶋晋平 2023 「和辻倫理学の系譜としての勝部真長の道徳教育論（下）」『九州看護福祉大学紀要』第23巻第1号において、1950年頃から1958年の「道徳の時間」の特設にいたる勝部の道徳教育論の展開をたどり、和辻の影響と特設道徳推進へのむすびつきを明らかにした。

この論文では、1つ目に、勝部の1950年前後の議論をたどり、勝部の道徳教育論が、ヘーゲルおよび和辻の枠組みを摂取して実体的人倫から相対的人倫へ、そして絶対的人倫への到達による両者の止揚を目指していたことを論じた。2つ目に、勝部が、道徳を生みだす根源としてのモラル・バックボーンの重要性を説いたこと、および、それが徳目として具体化されたことをしめした。3つ目に、1958年の「道徳の時間」の特設前後の道徳教育論の展開および道徳的価値の体系化の内実と、それが和辻の徳の諸相をめぐる議論の影響下で論じられていたことを明らかにした。

このことにより、勝部の道徳教育論が和辻倫理学の影響のもとで構築され、それが特設道徳の推進へとむすびついていたことがあきらかにされた。また、この研究によって、勝部の議論が内容項目の原型となったことが明らかにされており、具体的にどのように内容項目へとむすびついていったのかについての論文が今後公刊される予定である。

(4) 伝統的な「まこと」の思想・心性の道徳教育における展開

本研究課題では、伝統的な「まこと」の思想・心性が、戦後の道徳教育においていかに展開されたのかを明らかにした。この研究を実施した理由は、「まこと」が、この国の伝統に根ざすとともに、和辻倫理学の根幹に位置づいているからである。

このことは、桑嶋晋平 2022 「下程勇吉における「まことの倫理」と道徳教育」『続・道徳教育はいかにあるべきか』（ミネルヴァ書房）において明らかにされた。この論文では、京都学派の系譜にある下程勇吉の「まこと」をめぐる議論および戦後の道徳教育論を検討した。下程は、和辻と同様に（また、超越という視点をいれることで和辻との差異をふくみながら）この国の伝統に根ざす「まこと」を論じるとともに、それを道徳教育論においても展開した。下程においては、道徳教育の根幹には、「まこと」が位置づくべきであるとされた。ここに、「まこと」の思想・心性の道徳教育における展開の一端をみてとることができた

(5) 道徳の時間から特別の教科道徳にいたる学習指導要領における「まこと」の展開

本研究課題では、(4)で明らかにした「まこと」の道徳教育への影響という視点から、道徳の時間から特別の教科道徳にいたる学習指導要領を検討し、「まこと」の展開を明らかにした。桑嶋晋平 2023 「戦後日本の道徳教育において「誠実・正直」はどう語られ・位置づけられてきたのか」教育科学研究会道徳と教育部会報告（オンライン開催、2023年2月5日）において、学習指導要領の「誠実・正直」が、揺らぎがありながらも、継続して重要な位置をあたえられたこと、およびそれがたんなる内容項目のひとつにとどまらず、その中心に置かれるべきという言葉がしばしば提示されてきたことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 桑嶋晋平 | 4. 巻 23(1) |
| 2. 論文標題 和辻倫理学の系譜としての勝部真長の道德教育論（上） | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 九州看護福祉大学紀要 | 6. 最初と最後の頁 2-14 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 桑嶋晋平 | 4. 巻 23(1) |
| 2. 論文標題 和辻倫理学の系譜としての勝部真長の道德教育論（下） | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 九州看護福祉大学紀要 | 6. 最初と最後の頁 15-27 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 桑嶋晋平 |
| 2. 発表標題 戦後日本の道德教育において「誠実・正直」はどう語られ・位置づけられてきたのか |
| 3. 学会等名 教育科学研究会道德と教育部会 |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 道德教育学フロンティア研究会 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 320 |
| 3. 書名 続・道德教育はいかにあるべきか | |

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 岸本智典編 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 教育評論社 | 5. 総ページ数 336 |
| 3. 書名 道徳教育の地図を描く | |

| | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 著者名 教育哲学会 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 800 |
| 3. 書名 教育哲学事典 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|